

高知県と兵庫県の市区町村別ごみの排出量

213x118x 堀岡真未

1. はじめに

現在、経済成長と人口増加に伴って、地球規模での廃棄物の増加と質の多様化が起っています。適正処理が行われない廃棄物は生活環境や公衆衛生を悪化させ、ときに深刻な健康被害を引き起こす可能性があります。持続可能な開発目標に「目標12 つくる責任 つかう責任」というものがあり、それに廃棄物の管理や削減する取り組みの内容が含まれています。そこで、我々日本人が一人あたり毎日のどれほどの廃棄物を出しているのかを自覚するために、令和2年度の高知県と兵庫県の市区町村別ごみの排出量を調べました。(この2県を選んだ理由は、高知県は私の育ったまち、兵庫県は現在住んでいるまちだからです。)

2. 方法

散布図とレーダーチャートを用いて表すことを考えました。散布図は、横軸が「一人あたり一日何グラムの生活系ごみを出しているか」、縦軸は「一人あたり一日何グラムの事務系ごみを出しているか」を市区町村別で表しています。また、高知県にある市区町村は青いドットで、兵庫県にある市区町村はオレンジ色のドットで表されています。マウスカーソルを当てると、[県名・市区町村名・生活系ごみの量・事務系ごみの量]が表示されます。一方レーダーチャートは、高知県・兵庫県それぞれの県全体の平均の値を表しています。色は同上です。

また、点・線をクリックすると、その県のみを表示することができます。

3. 結果

高知県のほうが、一人あたりの生活系ごみの排出量が多いことがわかります。一方、事務系ごみは兵庫県の方が多いですが、その差は小さいです。

また、高知県の散布図はまばらに広がっているのに対し、兵庫県の散布図はまとまっています。高知県は過疎化の激しい地域が存在するので、それが1つの理由であると考えられます。さらに、高知県内の5つの市区町村で事務系ごみの排出量が0になっています。

4. 結論

兵庫県と高知県では人口密度に7倍ほどの差がありますが、事務系ごみの排出量にそこまで大きな差は見られませんでした。また、生活系ごみの排出量は人口の少ない高知県のほうが上回る傾向がみられました。

持続可能な開発目標を達成するため、一人ひとりがごみについて意識を持つべきだと感じています。

5. 参考文献

- 環境省 廃棄物処理技術情報 廃棄物処理の現状と科学研究
(http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/r2/index.html)